

食品成分委員会について（案）

令和5年4月26日

資源調査分科会

1 目的

科学技術・学術審議会資源調査分科会では、資源の総合的利用に関する重要事項の1つとして、日本食品標準成分表を位置付けており、日本食品標準成分表は昭和25年に取りまとめられて以降、日本食品標準成分表2020年版（八訂）（以下、「成分表2020年版（八訂）」という。）での現代型食生活への対応など改訂・拡充が重ねられ、現在では、一般家庭や各種の給食・調理現場等での栄養管理・指導面、国民健康・栄養調査や食料需給表策定等の行政面、更に栄養学や医学等の教育・研究面において、幅広く活用されている。

今般、科学技術・イノベーション基本法に基づく科学技術・イノベーション基本計画（令和3年3月26日閣議決定）において、様々な社会課題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用が示され、その価値創造の源泉となる「知」の創造が求められている。

それらに資するため、本委員会では、今後の資源の総合的利用のための日本食品標準成分表の次期改訂方針やあり方について、次の観点から検討を行う。

- ・日本食品標準成分表の目的・性格
- ・掲載すべき食品や情報
- ・改訂の主旨・公表年度
- ・公表の方法

併せて、次期改訂を進めるため、次の（1）から（3）の事項を推進する。

（1）掲載食品の更新・充実

- ・成分表2020年版（八訂）において約2,500の掲載食品数があり、掲載食品の更新（メンテナンス）としての再分析、新規食品または未調査成分の分析について、複合食品は計算による掲載値の維持を検討しつつ、素材系の食品は摂取量の多さや流通食品の変遷など等から優先度合を検討する。
- ・その際、限られた予算の中で、食品のエネルギーの算出基礎となる成分として、組成成分のアミノ酸組成に基づくたんぱく質、脂肪酸のトリアシルグリセロール当量、利用可能炭水化物を採用したことによる優先度、また、類似食品からの推計を併用しつつ、食物繊維における2018年に見直した分析法に基づく成分分析の優先度にも留意する。

（2）デジタル社会での多様な利用を見据えた食品成分データの利活用推進方策の検討と精度・信頼性の向上

- ・デジタル社会での多様な利用を見据え、オープンデータの意義等を踏まえた食品成分

データとするために、組成成分からの積み上げによる一般成分を決定する手順及び各段階での様式をシステム化するなど必要な検討を行う。更に、関係省庁の利用状況を把握し、我が国における多様な利用に対する食品成分データの適切な提供や連携など利用推進方策を検討する。

- ・また、食品成分データの精度・信頼性の向上を目指し、国内外の食品成分データの構成や作成方法等について比較検証を行う。
- ・さらに、多様な利用者のために、成分表 2020 年版（八訂）について、英語版の作成または翻訳機能の活用など検討する。

(3) 国内外動向調査

- ・日本食品標準成分表は、食品表示法等でも活用されているところであり、民間を含めた関係団体等の動向や関連施策での検討状況を踏まえ、食品分析データの受入れ・情報提供等の検討のほか、国内での食品摂取を基本に、国外で公表している食品分析データやその利活用についても把握し、今後のあり方の検討につなげていく。なお、国際的な枠組みである FAO との連携について検討する。

2 調査事項

(1) 日本食品標準成分表の次期改訂への検討

- ・日本食品標準成分表の次期改訂方針やあり方について
- ・収載食品の更新・充実について
- ・食品成分データの利活用推進方策の検討と精度・信頼性の向上
- ・国内外動向調査について
- ・その他、日本食品標準成分表に関連する事項について

3 調査体制

科学技術・学術審議会資源調査分科会運営規則第3条に基づき、資源調査分科会の下に、分科会長が指名する委員、臨時委員及び専門委員をもって構成される食品成分委員会を設置する。

食品成分委員会は、2の事項に関して調査を行い、資源調査分科会に報告を行うものとする。